



潜入、  
水防訓練!

土のう袋に土（真砂土）を詰める。袋の口を持つ人とスコップを持つ人の2人1組の作業



福岡県糸島市  
文 | 編集部 写真 | 大村嘉正

土のうを  
使いこなす  
プロの技を学ぶ

# 水辺を守る土のうと粗朶

そ  
だ

## 土のうの口の結び方

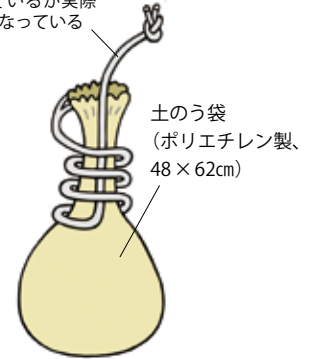


完成した土のう。土を多く詰めると運ぶのが大変なので、1袋にスコップ2杯半～3杯（20～25kg）にしていた



実際に結ぶときは、親指の上から2～3回巻いて、最後にヒモの先を親指で押さえ、そのまま引き抜くとうまくいくようだ

\*図では1本のヒモのように描いているが実際は2本が重なっている



ヒモを引いて口を閉じたら、そのヒモを袋の首に2～3回まわし、その内側を下から上へ通し、しっかり締める（上から下に通すやり方もある）

令和元年の水防訓練を  
開始します～



集まった消防団員は、糸島市内14分団の班長以上の幹部252人（全団員は995人）。糸島市消防本部職員の指導で土のうづくりや水防工法を学んだ

「本日は、これから梅雨時期に起こる長雨や台風に備えての訓練です。近年、全国各地で大規模な自然災害が発生しています。この糸島においてもいつ何時起きるかわかりません」

ヒバリの声のどかに響く5月12日の日曜日、松崎治磨団長（61歳）の訓示で始まったのは、福岡県糸島市消防団の年に1度の水防訓練。水防とは文字どおり水害を防ぐこと。糸島市のように消防団が水防活動を行なうところが多いが、専門の水防団を置く市町村もある。どちらの場合も団員は、非常勤の特別職地方公務員として地域住民の中から任命される。

水防に欠かせないのが土のうだ。糸島市消防団の水防訓練もまず土のうづくりから始まった。土のうといえば、水害時に並べたり積み重ねたりして使うものということは想像がつくが、土のうを積むにも技術がある。積むだけでなく、重しとしても使う。

この日行なわれた「水防工法」の訓練から、地域の消防団員が学ぶ土のう活用の技を見てみよう。

